



センターパートに向けて急激に落とし込むデザインを採用。この立体感がより強調されるカラー、グリットシルバーが狙い目だ。



精造でありながら、繊細かつシャープなデザインが特徴。装着するだけで、足元に躍動感が生まれるのもSG2の魅力の一つ。

スポークをリムまで伸ばすことで、視覚的な延長効果もあり、そして、ピアスを均等に配置することで、安定感を与えている。

**V** IPオーナーから絶大な人気を誇るワーク。なかでも、発売当時、驚異的な大ヒットを飾ったのがシュヴァートだ。そんなシュヴァートから最新作となるモデルがリリースされた。その名はSG2。前作のSG1は二つの星型をドッキングさせたダブルデザインが特徴だった。そして、今作のSG2では、ワーク史上はじめてとなるトリプルデザインを採用。オープンメッシュ、ツインスポーク、フィン——それぞれ異なるデザインながら、すべてがバランスよく調和し、シュヴァートの特徴である精造美を存分に感じられるモデルに仕上がった。メインカラーはブラックカッタク



ワーク初となるトリプルデザインを採用

# SCHWERT SG2

ワーク tel.06-6746-2859(西日本) tel.048-688-7555(東日本) <http://www.work-wheels.co.jp>

SCHWERT SG2  
シュヴァート エスジーツー

19inch	7.5J~12.5J	8万1400円~9万2400円
20inch	8.0J~12.5J	9万3500円~10万3400円
21inch	8.5J~12.5J	11万2200円~12万9800円

リアとグリットシルバーの2色を用意。どちらも選びがたいカラーラインナップだが、SG2の立体感をより強調するなら、グリットシルバーを選びたいところ。「通常、シルバーは主役になることはあまりありませんでしたが、SG2の複雑なデザインを魅せるのでし

たらシルバーがおすすすめ。メッキ並にきらりと光ってくれるので、VIPの高級感をよりアピールできると思います」とワークの吉川サン。オフショーンでフロントアルマイトリムやブラックアルマイトリムなどに変更も可能。自分だけのSG2にカスタマイズして他と差をつける。



# 50 CENTURY

COVER CAR  
今月の表紙車

## 終わりになき旅 VIPは永久不滅

日本を代表する最高級車であり、たとえお金があっても乗るには覚悟の要るクルマ。それをイジるといふのだから、生半可な気持ちでは許されない。胸を張って誇れる真のVIPセダンを作るために、果てしない道をひた走る。

文 ⊕ 佐藤 知範 Tomonori Sato 写真 ⊕ 高原 義卓 Yoshitaka Takahara





SPECIFICATION

●エアロ:(F・R)ジャンクションプロデュース加工 (S)ジャンクションプロデュース+Kプレイク(W)ジャンクションプロデュース ●フェンダーオーバーフェンダー(F)3cm (R)6cm アーチ上げ(F・R)3cm ●ヘッドライト:後期純正 ●フォグランプ:後期純正 ●テールランプ:後期純正 ●ボディカラー:トヨタ202ブラック ●ホイール:イークロウWXW C1M 19inch(F)9.5Jマイナス38(R)12.5Jマイナス38 ●タイヤ:ニトーNT555(F)235/35 (R)285/30-19 ●足まわり:イデアル エアマックス(4輪独立) ●アーム:(F)M-Galeriaワンオフフルアーム ●ブレーキ:イデアルベースメモーターリンク駆本1F)Bpot.380φ (R)Epot.380φ ●マフラー:ワンオフストレート加工+セクショントレゾア4本出し ●外装その他:後付けサンルーフ ●室内:フル張り替え、ロックスフォードオーディオ、LED&ストロボ加工 ●トランクオーディオ、ロックスフォード、LED加工

最前線を走り続け10年目  
初心に戻って再ブリスト

を知る者ほど、大きなプレッシャーを感じるのではないだろうか。だがそんな諸々にも臆することなく、禁断のセダンに挑み始めたのは約10年前。オーナー21歳の時。「最上級の車格に、国産では唯一のV12エンジンを搭載。VIPの世界で一番を目指すなら、このセンチュリーしかないと思いました。」さっそく車高調で落とし、エアロをニイイチし、ブレーキやマフラーも装着。各地のイベントにも参戦して知名度を上げると、23歳で本誌特集に初登場。その後も全塗装や内装張り替え、トランクオーディオ製作など、さまざまなリメイクを重ねながら最前線で戦い続けてきた。

そして今シーズン、外装を一新。VIPを極めんとする彼の旅程は、また新たな佳境を迎える。

むろんカスタム例がないわけではないのだが、センチュリーと聞いて出てくるのは、TFLコンプリートの神林サンやファイブティエーオト、呉藤サン、スパークファイブ、喰田サンなど、名だたる顔ぶれ。VIP

誰もが羨むような高級車を、容赦なくイジる。それは昔から変わらぬVIPの醍醐味の一つ。「もったいない」「非常識だ」といった意見もあるだろうが、そんなのは百も承知。だから面白い、目立つのである。とはいえセンチュリーとなると話も変わってくる。皇室をはじめ、本物のVIPが乗るような特別なセダンなのだ。G50系は20年も販売されていたから、中古車店では100万円くらいで買えたりもする。ただと本当にいいの...?といった気持ちになるのが普通。

VIPの頂点を目指すべく  
21歳で禁断のセダンに挑戦



# 50 CENTURY





前後バンパーの丈を延長し、どっしりと厚みのあるフォルムを実現。トヨタ202ブラックで塗り直したボディの美しさも特筆モノ。

かつて一世を風靡したセツシヨン・トレゾアも採用。探しに探してようやく見つけた当時物である。漆黒の202ボディにジャンクシヨンエアロ、VIPらしいワイド&ローなフォルムとツライチ。そして4本出しのトレゾアからは、重々しいV12サウンドが響き渡る。さらにドアを開けば、赤×黒ツートンの鮮烈なインテリアがお出迎え。

「外は渋く、中はド派手というギャップ狙い。トランクの作り込みや音質・音圧も自信あります」。

早くも手応えを感じている新仕様は、今後も全国を巡ってお披露目予定。10年前に志したVIPの頂を手にする夢は、まだまだ続く。



定番の赤×黒仕様だが、ダッシュはアルカン、シート中央はパンチングを使うなど質感で変化を出す。室内のあらゆる場所にLEDが仕込まれており、夜も強烈に目立つ。機器類はロックフォードで揃えた。

COVER CAR **50CENTURY**

VIPSTYLE 公式YouTube



VIPスタイルの公式YouTubeにて、西山さんの50センチュリーを詳しく紹介中。日本五大稲荷に数えられる荘厳な高橋稲荷神社と、渋くイカツイセンチュリーの相性は最高。ぜひ、お見逃しなく。



**K** ブレイクのエアロをニコイチしてのり付けた。何年も愛用してきたそのバンパーを今回は脱ぎ、新たにジャンクシヨンプロデュースを身にまとう。

「センチュリーが持つ本来の風格を生かしてシンプルに。改めて、これをVIPカーというような王道のスタイリングを追求しました」。

ゆえにデザインやラインの大幅変更はなし。アレンジはパランスを整える目的で実施している。たとえば前後バンパーの丈は、さり気なく下方に3〜5センチ延長。

「フロントはメッキモール下から開口部の間を、リアも真ん中くらいを伸ばしました。エアサス車なら、むしろ短縮するケースの方が多いと思いますが、薄くするとVIPらしい



後期純正フォグでセンチュリーらしく。ちなみにベースは前期だが、ヘッドライト&テールは後期に換装済み。



チタンピアスを合わせたC1M。イデアルキャリアーには自ら代表を務めるモーターリンク熊本のロゴを刻む。



出幅はF3・R6センチ。以前はリムツラ合わせだった仕様は、今回迫力のシルダーツラに変更している。



KBトレゾアからオリジナルのセッショントレゾアに。「根気よく探し続けてようやく発見。苦労しました」。



センチュリーの施工例はなかなか珍しい後付けサンルーフ。手動式だが雨漏りもなく安心して使えている。



熊本県  
**西山 航司 (30)**  
• VIP歴：12年  
• 愛車歴：9年

「ここまで来られて、まわりの皆さんには大感謝。特にVIPカーというものを教えて下さった大林社長にはお世話になりました。これからも頑張っていきます」。



不撓不屈の魂を抱き  
ジャパニーズVIPの  
王道を突き進む